

草加松原でよむ

おくのほそ道

# 句会報

令和四年四月十六日(土)

主催 公益財団法人草加市文化協会

▼長谷川權 特選

【天】花ふぶく芭蕉の空へ雀どち

沼崎邦子

【地】芭蕉像の視野の中なり梅は実に

島村喜美子

【人】蕉翁の肩に四月の陽の燦々

上山辰子

▼長谷川權 入選

草加宿銀杏大樹の芽吹きけり

島村喜美子

大寒や夜半の厨にジャムを煮る

吉村康子

冬もみじ枝切り水にメジロ来る

上手一雄

うららけし芭蕉と曾良の旅姿

山口米子

黒松の高き一樹や囀れる

沼崎邦子

うららかや雨後の真砂の遊歩道

西川由子

戦塵に惑ふ人々春嵐

山田淳

行春や曾良はまだかと芭蕉像

彦坂妙子

堂々と老ひて松の木立ち尽す

山口米子

ドナルド忌夕日まぶしき漸草庵

沼崎邦子

並びたる円座が五つ雲流る

島村喜美子

つくばひに落花ふたひら芭蕉庵

沼崎邦子



長谷川權先生と受講生のみなさんで。

▼受講生 互選〈高点順〉

4点 春水に水琴屈の音色落つ

石川猛

1点 寒戻りまださめきらぬ四肢の筋

佐藤峰子

4点 うららかや雨後の真砂の遊歩道

西川由子

1点 草加宿銀杏大樹の芽吹きけり

島村喜美子

4点 ドナルド忌夕日まぶしき漸草庵

沼崎邦子

1点 春風や草加で子規の句碑に会ひ

村山修子

3点 昔日は昨日の如し花吹雪

山口米子

1点 綾瀬川舟頭巧みに街長閑

佐藤峰子

3点 裏庭へ続く踏石竹の秋

島村喜美子

1点 大寒や夜半の厨にジャムを煮る

吉村康子

3点 百代の永遠の流れや水は春

山口米子

1点 葉や大樹の根方に陽を集め

上山辰子

3点 百代橋ゆっくり渡る白日傘

島村喜美子

1点 うららけし芭蕉と曾良の旅姿

山口米子

2点 来傘寿春宵一刻新書本

青柳優

1点 水温む川に若さの溢れけり

山口米子

2点 陽だまりの仄かな温み梅蕾

佐藤峰子

1点 パンドラの箱侵す国野火猛ける

山田淳

2点 葉桜や昨日の雨が色添へて

村山修子

1点 まつごしのぜんそうあんでひとやすみ

曾合吉雄

2点 まくなぎや鉄錆滲む躰り口

西川由子

1点 黒松の高き一樹や囀れる

沼崎邦子

2点 草餅や薄茶一服漸草庵

村山修子

1点 漸草庵に茶事のあるらし春灯

上山辰子

2点 大樽の茶室閉じられ花は葉に

山田淳

1点 戦塵に惑ふ人々春嵐

山田淳

2点 キーウの春深しロシアの「罪と罰」

上山辰子

1点 蕉翁の肩に四月の陽の燦々

上山辰子

2点 陽炎や曾良と夢追ふ歌枕

石川猛

1点 桜散る綾の流れに小鷺二羽

彦坂妙子

2点 まつなみきはるのめざめよこもはずし

曾合吉雄

1点 松の花三頭の竜のまだ眠し

西川由子

2点 堂々と老ひて松の木立ち尽す

山口米子

1点 つくばひに落花ふたひら芭蕉庵

沼崎邦子

2点 子規の碑に雨沁み入りて余寒なほ

上山辰子

▼長谷川權 作品

行く春や水のほとりに影法師

ひよろひよると伸びたる松の長閑さよ

いつの春だったか旅の影法師

永遠の旅人ならん春も又

松原の道をいづこへ行く春ぞ

（草加松原を題材に詠んでいたのだいたいです）

▼受講生 作品

こんな松ウチにもあるよ寒さよけ

綾瀬川松葉手広げ平泳ぎ

芭蕉の松島草加の松の芯

林立の春雲被る団地かな

寒風に運ばれ松に菊の花

芭蕉句碑前にて敲く春の詩

されぎれの木霊谷間に冴え返る

つくばいに桜浮かべて客を待つ

首蓆かんむり作る小さき手

門松に真似て腰にこも巻く

かわかぜにぜんそうあんでひとやすみ

寒風に吹かれて子等のほほ赤し

萩の芽のすこやかな空キーンの碑

權ゆかし引鴨きそう綾瀬川

まつばらのまつのはらまきふゆきたる

やられたりヒヨドリ来襲家庭園

萩若葉怒鳴怒手植の鋤の跡

一木の楢円銀河や花水木

去年今年追い越して行く靴の音

桜散りつつと咲き初む札場河岸

行く春や新設つどう芭蕉庵

薬や樺大樹は再生す

白雲やキーンさん恋う松並木

下萌えり往時の氣息芭蕉像

八重桜求肥は舌をすこし押し

春の月すり硝子ごしほんのりと

五千歩の日課果たして春夕焼

かわかぜにきもちおだやかまつのはな